

栗原の稲作通信

令和6年 第2号 令和6年6月4日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 適正な水管理で分けつの発生を促進しましょう
2. 雑草の発生状況を確認し、防除が遅れないようにしましょう
3. いもち病対策として、補植作業が終了したら残苗は速やかに処分しましょう

1. 気象経過

○4月の気温は平年に比べて高くなりました。9日を除きまとまった降雨はなく、降水量は平年並みでした。また、4月は晴れる日が多かったため、日照時間は平年に比べて多くなりました。
○5月の最高気温は平年並みでしたが、最低気温が平年を下回り、日較差が大きい月となりました。まとまった雨が少なく降水量は、平年に比べて少なくなりました。日照時間は平年並みになりました。

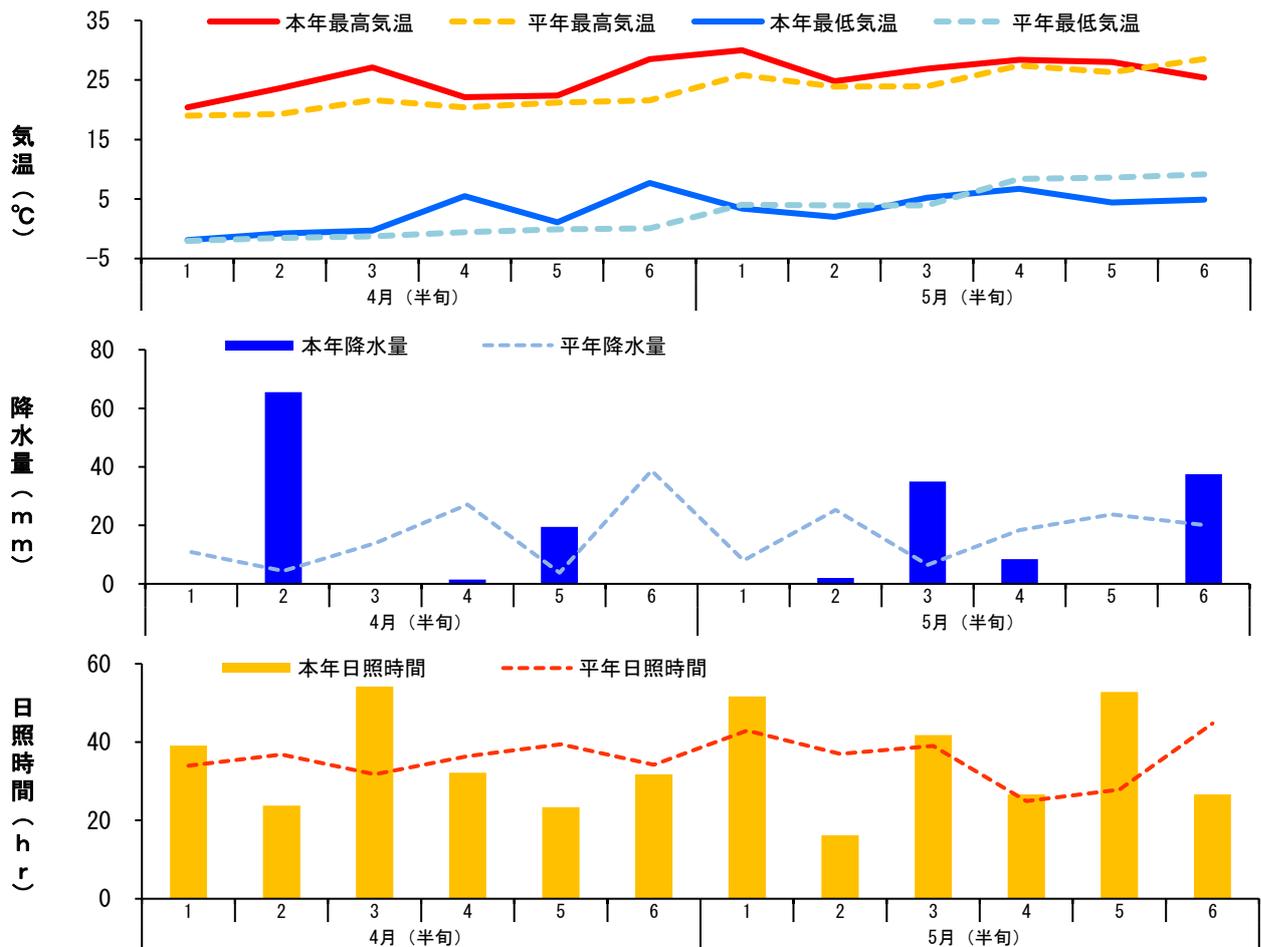


図1 4・5月の気象経過（築館アメダス） ※平年（点線）：過去5年平均

2. 播種、田植え状況・生育経過

1) 播種、田植え状況

- 管内の播種盛期は平年に比べて2日早くなり、終期は平年に比べて3日遅くなりました。
苗の生育は、一部で高温障害等が見られましたが、おおむね良好に生育しました。一方で、4月の高温・多照により徒長した苗が多く見られました。
- 田植え始期は平年と同日となり、田植え盛期と終期は平年に比べて1日遅くなりました。
(表1)

表1 管内の播種状況、田植え状況

項目		播種			田植え		
		始期 5%	盛期 50%	終期 95%	始期 5%	盛期 50%	終期 95%
栗原管内	本年	4月6日	4月13日	4月27日	5月4日	5月15日	5月25日
	平年	4月5日	4月15日	4月24日	5月4日	5月14日	5月24日
	平年差	1日遅い	2日早い	3日遅い	同日	1日遅い	1日遅い
県内	本年	4月3日	4月11日	4月21日	5月3日	5月12日	5月23日
	平年	4月2日	4月11日	4月21日	5月4日	5月11日	5月22日
	平年差	1日遅	同日	同日	1日早い	1日遅い	1日遅い

2) 生育経過

- 苗質調査では、平年に比べて草丈が長く、葉数が少ない傾向となりました(表2)。
- 6月1日調査は、前年と比べて、茎数と葉数が少ない傾向となりました。

表2 生育調査結果

品 種 地区	田 植 日 (月日)			田 植 時 調 査								
				栽植密度 (株/m ²)			植付本数 (本/株)			茎数 (本/m ²)		
	本年	前年差	平年差	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)
ひとめぼれ 若柳	5/21	同日	1日遅	18.8	101	103	3.7	77	74	70	77	76
ひとめぼれ 一迫	5/10	2日早	-	19.4	98	-	3.5	117	-	68	115	-
つや姫 築館	5/23	5日遅	1日遅	12.2	80	74	3.4	83	96	41	66	71

品 種 地区	苗 質 調 査						6月1日調査								
	草丈 (cm)			葉数 (枚)			草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (枚)		
	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)
ひとめぼれ 若柳	17.9	99	106	2.9	-1.3	-0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ひとめぼれ 一迫	16.5	127	-	2.4	-0.9	-	20.9	96	-	68	91	-	4.5	-1.3	-
つや姫 築館	21.0	122	142	3.0	0.2	-0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1：平年値は過去5年の平均値とする。

注2：調査を行わなかったところや、過去5年の平均値が分からないところは「-」で表示している。

注3：若柳ひとめぼれ、築館つや姫は6/10から調査予定。

3. 今後の管理のポイント

1) 適正な水管理で分けつの発生を促進しましょう

- 田植え後2週間程度は、イネの活着促進のため、水深5~6cmの深水管理としましょう。
- イネの活着後は分けつの発生を促進させるため、水深2~3cmの浅水とし、水温・地温を高めて分けつの発生を促しましょう。
※低温になることが予想される場合は、水深5~6cmの深水としましょう。
- 根の活力維持のため、間断かん水と中干しを行いましょ。中干しは目標茎数(穂数)に達したら、早めに行いませ。

※目標茎数の目安

ひとめぼれ : 410~460 本/m²
ササニシキ : 480~510 本/m²
つや姫 : 400~480 本/m²

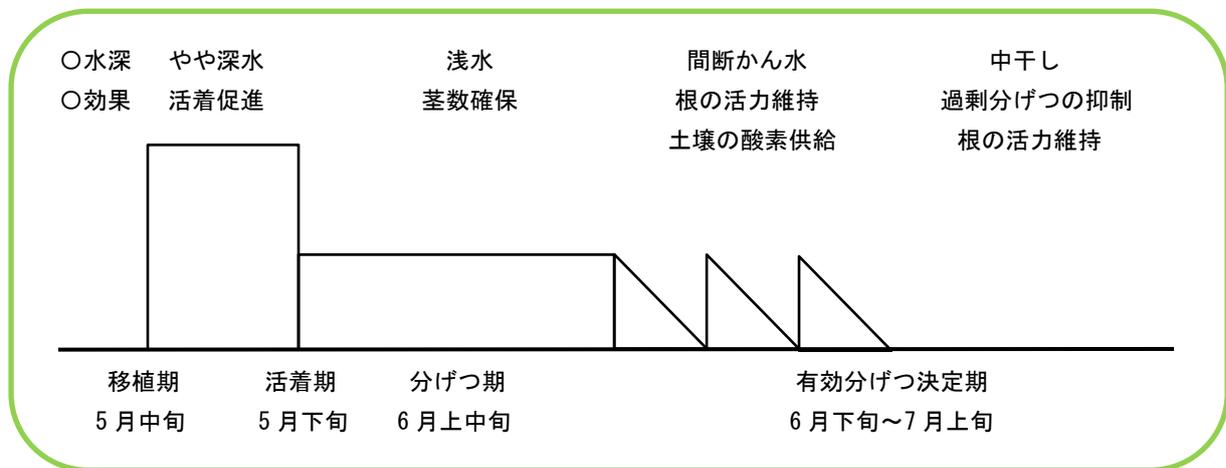


図2 今後の水管理体系

2) 雑草の発生状況を確認し、防除が遅れないようにしましょう

- ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの残草がある場合、雑草の種類、除草剤の散布期限(ノビエの葉齢や収穫前日数)を確認し、中・後期剤の使用を検討しましょ。
- 表層剥離が多発すると、フロアブルやジャンボ剤では拡散が妨げられ濃度のムラが生じ、局所的に薬害や残草が生じます。藻類や表層剥離の発生が懸念される場合には、徐々に落水して浅水管理を行い、降雨時には落水して田面に雨が当たるように管理しましょ。
- 水田内にヒエやホタルイ類の雑草が目立つほ場があります。これらの雑草は稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せるので、雑草の葉齢を確認して適切な剤を散布し、雑草が出穂する前の7月上旬までに防除しましょ。
- 斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、7月中旬までにほ場周辺の休耕田や土手・畦畔等の除草に努め、畦畔では雑草の穂が出ないように管理しましょ。

**除草剤散布後7日間は、落水やかけ流し等を行わないように
しましょ。**

3) いもち病対策として、補植作業が終了したら残苗は速やかに処分しましょう

○補植用苗（残苗）は本田でのいもち病発生の原因になります。補植作業が終了したら速やかに処分しましょう。

○残苗でいもち病を確認した場合、周辺の稲で発生していないか確認しましょう。

○いもち病の胞子が発芽、感染するためには次の条件が必要です。

- (1) 葉面湿潤時間が10時間以上
- (2) 葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃
- (3) 前5日間の平均気温が20℃～25℃

これら3つの条件が全て満たされると、いもち病の感染に好適な条件となります。

○「BLASTAM（ブラスタム）が病害虫防除所のサイトで公開されていますのでご利用ください。サイトURL：「<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>」

「BLASTAM とは？」

アメダスデータを基に葉いもちの感染に好適な日を推定するシステムモデルです。

いもち病の感染に好適な条件が連続し県内広域で出現した場合、約2週間後に葉いもちの発病の増加が始まります。ほ場を見回り発生に注意してください。

※BLASTAM によって感染好適日又は準感染好適日が出現していない場合でも、ほ場の条件（風通し等）によって感染に好適な条件となる可能性がありますので、あくまで目安としてご利用ください。

◎お知らせ！

■農作業安全確認について

農業機械作業による死亡事故が多発しています。シートベルトを着用することで死亡事故の発生を大幅に低減できるため、トラクター運転時は装着を徹底しましょう。

また、安全フレーム等の装備を改めて確認し、公道を走行する際には灯火器類の設置や法令遵守を徹底しましょう。

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。